

東京工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	物性物理
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	機械情報システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	4		
教科書/教材	特になし 必要に応じてプリント等を配布する					
担当教員	大野 秀樹					
到達目標						
この授業を通じて、現象の物理的な見方、考え方を身につけて自然現象を系統的、論理的に考えていく力を養っていく。 本講義では、物性物理の基本的な事項について学ぶ。結晶構造と量子力学の基礎、バンド理論の概説に触れ、次のような到達目標を設定する。 【1】ブラペー格子、逆格子空間、逆格子ベクトル、ミラー指数、ブラッグの条件についてその概要を説明でき、関連する基本的な計算ができる。 【2】定常状態のシュレディンガー方程式（無限に深い1次元の井戸型ポテンシャル中）、物理量の期待値、2乗ゆらぎ等について基本的な計算とその意味が理解できる。 【3】円環状における自由電子、周期的ポテンシャル中の電子について、それら電子の取り得るエネルギーの違いについて基本的な事が理解できる。また、それに関する基本的な計算ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ブラペー格子、逆格子空間、逆格子ベクトル、ミラー指数、ブラッグの条件についてその概要を説明でき、関連する基本的な計算ができる。		ブラペー格子、逆格子空間、逆格子ベクトル、ミラー指数、ブラッグの条件についてその概要を説明できる。		ブラペー格子、逆格子空間、逆格子ベクトル、ミラー指数、ブラッグの条件についてその概要を説明できない。	
評価項目2	定常状態のシュレディンガー方程式（無限に深い1次元の井戸型ポテンシャル中）、物理量の期待値、2乗ゆらぎ等について基本的な計算とその意味が理解できる。		定常状態のシュレディンガー方程式（無限に深い1次元の井戸型ポテンシャル中）、物理量の期待値、2乗ゆらぎ等について基本的な計算ができる。		定常状態のシュレディンガー方程式（無限に深い1次元の井戸型ポテンシャル中）、物理量の期待値、2乗ゆらぎ等について基本的な計算ができない。	
評価項目3	円環状における自由電子、周期的ポテンシャル中の電子について、それら電子の取り得るエネルギーについて、基礎的な計算ができる。また、その計算結果から電子の取り得るエネルギーの違いがわかり、エネルギーバンドがどのようにできるか理解できる。		円環状における自由電子、周期的ポテンシャル中の電子について、それら電子の取り得るエネルギーについて、基礎的な計算ができ、その計算結果から電子の取り得るエネルギーの違いがわかる。		円環状における自由電子、周期的ポテンシャル中の電子について、それら電子の取り得るエネルギーについて、基礎的な計算ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (c) JABEE (d) 学習・教育目標 C5						
教育方法等						
概要	物性物理の基本的な事項「結晶構造の基礎」と「量子力学の基礎」について理解し、電子線回折やX線回折の簡単な実験データを解析ができるようになること、バンド理論の概要が理解できるようになることが目標である。					
授業の進め方・方法	主に講義形式で行うとともに、課題を課す。					
注意点	評価割合の項目別では、それぞれ以下の評価が行われる。 「試験」は1回行われる定期試験の成績である。 「ポートフォリオ」は課題レポートの成績である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 結晶と前期量子論		結晶の概念と前期量子論について理解できる。	
		2週	ブラペー格子、空間格子と並進ベクトル、ミラー指数		ブラペー格子について知る。立方晶系については、並進ベクトルやミラー指数について求められる。	
		3週	空間格子と逆格子空間、逆格子ベクトル		逆格子空間を理解し、立方晶系について、その逆格子ベクトルを求めることができる。	
		4週	逆格子とX線、電子線回折との関係、ブラッグの条件		逆格子空間を用いて、結晶の回折条件を導き出せる。	
		5週	電子線回折実験データの解釈		4週までに学んだことを用いて、電子線回折の実験データ解析を行う。	
		6週	X線回折実験データの解釈		4週までに学んだことを用いて、X線回折実験データ解析を行う。	
		7週	シュレディンガー方程式の導出		シュレディンガー方程式の導出ができる。	
		8週	無限に深い1次元の井戸型ポテンシャルに捕らわれた自由電子①		シュレディンガー方程式を用いて、波動関数や電子のエネルギーを求めるとともに、その物理的解釈ができる。	
	4thQ	9週	無限に深い1次元の井戸型ポテンシャルに捕らわれた自由電子②		位置、エネルギー、運動量の期待値と2乗ゆらぎを求めるとともに、その物理的解釈ができる。	
		10週	円環上での自由電子		円環上での自由電子の波動関数や電子がもつエネルギーを求められる。	
		11週	周期的なポテンシャルを持つ円環上での電子		ブロッホの定理を理解し、周期的なポテンシャルを持つ円環上での電子の波動関数を表すことができる。	
		12週	クローニッヒ・ペニーのポテンシャル中での電子		ブロッホの定理とクローニッヒ・ペニーのポテンシャルを用いることで、周期的ポテンシャル中の波動関数、エネルギーに關した計算できる。	
		13週	エネルギーバンド		前週にひきつづき計算を行い、エネルギーをバンドがどのようにできるかが分かる。	
		14週	試験			

		15週	本科目のまとめ		試験の解説、本授業のまとめ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	後7	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	後9	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	後4	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	後4,後10	
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後4,後10	
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後4	
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後5,後10	
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	後1,後10	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	後1,後10	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後2,後10	
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	後14	
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	後14	
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	後13	
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	後3,後11	
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	後3,後11	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	後3,後6,後11	
				力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3	後3,後11	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	75	0	0	0	25	0	100
基礎的能力	75	0	0	0	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0